

# 白人小学校の青い目の人形

mairly

## 改名前の名前はMARLY

---

白人小学校には二体の「青い目の人形」がある。

その一体は「名前がわからない」との理由から後に別の名前が付けられた。

ですから、改名されたのであるから問題はないのであるが、もともとの名前が一般に知られていない。

この昭和二年に白人小学校に届いた人形のもともとの名前は「MARLY」だった。

だが、これを証明するためのパスポートも現存していない。

昭和五二年の六月に再々発見された時に名前を確認したのは、当時の白人小学校教頭の和田直輝(ワダナオテル)と校長の松田肇(故人マツダハジメ)のただ二人である。

再々度発見された日の夕刻の校長室で、人形に書き込まれた「MARLY」の文字を「メリー」と発音してみたのは教頭の和田だった。

当時の校長は

「俺は横文字は読めん。教頭さん。あんたよく読めるなあ。」  
と感心していたという。

だが、和田教頭も半信半疑だったので、当時大学生だった長男に確認した。

「おい、英語のなあ、女の子の名前だけどなあ。MARLYってな。なんて読むんだ？」  
と息子に電話を入れた。

当時の息子はその人形の発見のことなどは全く聞かされていなかったが、父からの問い合わせには

「英語読みとフランス語読みで違うはずだよ。メリーかメアリーだと思う。辞書で調べようか？」  
と息子は返事をした。

当時は教師の給料は現在同様に薄給であったため、電話代金の節約のため和田教頭はそれ以上追及しなかつた。

「いやあ、俺も昔そう教わったような気がするし、それ以外の読み方が考えられないから、もうお前は調べなくていい。メリーかメアリーだな。わかったよ、ありがとう。」  
そうやって電話を切った。

その電話の相手の息子というのが私(筆者)である。

父が英語の、それも女の子の名前を尋ねるなんて、父の性格や生き様から考えられないことだったので鮮明に記憶している。

「俺ははっきり記憶している。英語でなあ。MARLYって書いてあった。」

と和田直輝は今でも断言する。

ただ一人、現在生きている当時の関係者の和田直輝も85歳であり、余命いくばくもない。

だがなんと、この男は生涯を通じてこの白人小学校の青い目の人形に四度も縁を持つことになるのである。